

地域農業へのアプローチを目指した新たな畜産現地指導 (耕畜連携による課題解決を目指して)

畜産農家が畜産堆肥を通じて地域農業との連携を深めるため、今年度から当センターが農業改良普及センターや関係機関・団体と一体となって耕畜連携による課題解決を目指していますが、今回、その現地指導の状況について、京都府畜産技術業績発表会において紹介しました。

これまで中丹地域では畜産堆肥は農家個別に流通していましたが、このほど農業協同組合を通じてブランド京野菜等の栽培に適した畜産堆肥の地域内流通が拡大するよう働きかけています。

今後も当センターは、畜産堆肥を通じて地域農業に貢献したいと考えています。



中丹地域における 関係機関との（耕畜）連携を提案する

- ◎ 畜産技術センターが耕畜連携のコーディネートを図ることで地域農業の役に立てないか
- ◎ 畜産農家だけにとどまらない（現地）指導に関わることで、畜産技術センターは
 - ①どのようなポジションで
 - ②蓄積した技術をどのように生かし
 - 地域農業の支援ができるのか
- ◎ そして、各指導機関の連携により、新たな取り組みとして理解・協力を得られるのか

畜産技術センター